

織豊政権～江戸時代

政治史②

7 次の文章を読み、あとの各問いに答えよ。

7代将軍の徳川家継が死去し、徳川宗家（本家）が途絶えると、紀伊藩主の徳川吉宗が8代将軍となった。彼は幕府財政の再建を中心に幕政の立直しに取り組み、人材の登用や実学の奨励などにも努めた。吉宗の幕政改革は一時的には成功をおさめた。

その後、9代将軍の徳川家重を経て、10代将軍の徳川家治の時代には、側用人から老中になった田沼意次が幕政の実権を掌握した。彼もまた、幕府財政の再建に努めたが、賄賂が横行したため幕政への批判が高まり、徳川家治の死去に伴って、失脚した。

11代将軍に徳川家斉が就任すると、その補佐役として松平定信が老中首座になり、幕政改革を進めた。彼は農村の復興を目ざすとともに、困窮する旗本・御家人の救済をはかり、江戸の下層民の救済や治安対策にも力を注いだ。彼の改革は、厳しい統制や儉約令のため民衆の反発を招き、徳川家斉との対立もあって、退陣に追い込まれた。

天保年間、厳しい飢饉に見舞われる中で起こった大塩平八郎の乱は、幕府に大きな衝撃を与えた。徳川家斉が死去すると、老中の水野忠邦が幕政改革に乗り出した。彼は厳しい儉約と風俗の取締りを実施し、農村の再建にも努めたが、厳しい統制と不景気に人々の不満が高まった。三方領知替えや上知令は、領民や大名・旗本たちの反対で実施できず、失脚した。

この頃、欧米列強はアジアへの進出を本格化させていた。アヘン戦争で清がイギリスに敗れたことを聞いた幕府は、それまでの海防策を改めたが、鎖国体制を守る姿勢は貫いた。しかし、1853年のペリーの来航によって鎖国政策を完全に転換せざるを得なくなった。時の主席老中は幕府による独裁を捨てて、挙国的対策を立てようと安政の改革を行ったが、朝廷の権威が高まり、諸大名の発言力が増す結果をもたらし、幕府の権威は弱まっていった。

問1 下線部①の政策に該当しないものを、次の中から一つ選び、符号で答えよ。

- ア. 大名に対して上げ米を実施し、その代償として大名の在府期間を半減した。
- イ. 検見法を改めて、定免法を広く採用した。
- ウ. 新田開発を進め、有力商人の協力を要請した。
- エ. 小作人の本百姓化をはかって、均田制を実施した。

問2 下線部②に関して、東海道の川崎宿の名主から抜擢されて民政に業績をあげた人物を、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 青木昆陽
- イ. 大岡忠相
- ウ. 田中丘隅
- エ. 宮崎安貞

問3 下線部③の政策に該当しないものを、次の中から一つ選び、符号で答えよ。

- ア. 株仲間を広く公認して、営業税を取り立てた。
- イ. 関東取締出役を設けて、農村の復興をはかった。
- ウ. 長崎俵物役所をつくって、海産物の輸出に努めた。
- エ. 朝鮮人参座・銅座・鉄座など幕府直営の座を設けた。

- 問4 下線部④に関する記述として正しいものを、次の中から選び、符号で答えよ。
- ア. 秋田藩主として藩政改革に努め、勸農・殖産興業などを行った。
 - イ. 米沢藩主として養蚕・絹織物などの殖産興業に努めた。
 - ウ. 白河藩主として天明の飢饉を切り抜け、名声を高めた。
 - エ. 薩摩藩主として反射炉やガラス製造所などの建設を進めた。
- 問5 下線部⑤の政策に該当するものを、次の中から選び、符号で答えよ。
- ア. 相对済し令
 - イ. 棄捐令
 - ウ. 殉死の禁
 - エ. 赤子養育法
- 問6 下線部⑥の政策の内容説明として正しいものを、次の中から選び、符号で答えよ。
- ア. 七分積金の制度を設けて、下層民に7分の低利で貸し付けた。
 - イ. 石川島に人足寄場を設けて無宿人を収容し、職業授産を行った。
 - ウ. 人返しの法を出して、農村からの流入者を帰農させた。
 - エ. 豪商や豪農を幕府に登用し、物価や米価の引下げをはかった。
- 問7 下線部⑦の波紋は各地に及んだが、1837年、国学者の生田万が襲撃したのは、どこの地の代官所か。次の中から選び、符号で答えよ。
- ア. 伊賀上野
 - イ. 越後柏崎
 - ウ. 越中富山
 - エ. 下総佐倉
- 問8 下線部⑧に関する記述として正しいものを、次の中から選び、符号で答えよ。
- ア. 忠邦は、江戸の歌舞伎三座（中村・市村・森田座）を場末の浅草に移転させた。
 - イ. 忠邦は、『海国兵談』などで海防の必要性を説いた林子平を禁錮刑に処した。
 - ウ. 忠邦は、洒落本や黄表紙の作者のみならず、出版元も処罰した。
 - エ. 忠邦は、蛮社の獄で、渡辺崋山や高野長英を厳しく処罰した。
- 問9 下線部⑨に関する記述として正しいものを、次の中から選び、符号で答えよ。
- ア. 三方領知替えは、川越・庄内・松本3藩の封地の入れ替えを命じたものであった。
 - イ. 三方領知替えは、庄内藩主の酒井家や庄内藩領民の反対で、翌年、撤回された。
 - ウ. 上知令は、三都周辺の大名領や旗本領などの直轄地化をはかる法令であった。
 - エ. 上知令は、替地を命ぜられた外様大名や旗本・御家人の反対で実施できなかった。
- 問10 下線部⑩に関して、幕府は従来の海防策をどのように改めたか。20～30字で記せ。
- 問11 下線部⑪に関する記述として正しいものを、次の中から選び、符号で答えよ。
- ア. 参勤交代を3年に一度とし、在府期間も短くした。
 - イ. 徳川(一橋)慶喜を將軍後見職に、松平慶永を政事総裁職に任用した。
 - ウ. 五品江戸廻送令を出して、貿易や経済の統制をはかった。
 - エ. 江戸に洋学所を、長崎に海軍伝習所を設けて、人材の登用をはかった。